

立川市の将来像  
『にぎわいとやすらぎの交流都市 立川』

法令・学習指導要領

立川市教育委員会 教育目標

立川市の目指す子どもの姿  
○「知」「徳」「体」の調和のとれた力を備えた子ども  
○生涯にわたって自己を高めようと努力する子ども  
○まちを知り、まちに愛着をもち、まちのよさを受け継ぐ子ども  
○まちや社会と主体的に関わり、貢献しようとする子ども

立川市の重点課題  
○学力向上・体力向上 ○小中連携教育 ○特別支援教育の充実

重点取組事項  
○ネットワーク型の学校経営（コミュニティスクール）

立川市立立川第六中学校 教育目標  
知徳体のバランスの取れた生徒の育成、正しい判断で主体的に行動のとれる生徒の育成、個性と想像力にあふれ、勤労の目的を自覚し、意欲的に取り組める生徒の育成を目指して、以下の目標を設定する。  
◎自ら進んで学ぶ人 ○健康で心豊かな人 ○責任を果たす人

立川第六中学校区 共通経営方針  
○身近なまちを知り、まちの産業や施設等と関わり、身近な地域の課題を見出し、課題解決の力を身に付ける  
校区で目指す子ども像  
確かな力を備えた子 自他の生命尊重と思いやりのある子  
社会性を身に付けた子

経営理念 **学校や地域の伝統を誇りに思い、主体的に学習や諸活動に取り組む生徒の育成**  
～ 伝え合い、支え合い、学び合う学習活動の推進 ～

目指す学校像  
**六中生としての誇りを自覚できる学校**  
①互いの人権を尊重し、信頼の元に支え励ましあって、夢に向かって努力できる学校。  
②生徒が学習・生活に全力で打ち込み「わからない」をそのままにしない学校。  
③楽しさと生きがいを持てる、満足度の高い学校。  
④保護者・地域に信頼される学校。  
⑤課題解決に向け組織的に取り組む学校

目指す児童（生徒）像  
**六中生であることに誇りを持ち、規律を守り主体的に活動する生徒**  
①六中生であることに誇りを持ち、高い目標に向けて主体的に学習・生活に取り組む生徒  
②自他の良さを認め合い高めあうことのできる生徒  
③社会のために役立とうとする意識をもち、実践できる生徒

目指す教師像  
**生徒、保護者、地域から信頼される教師**  
①ダイヤモンドの原石である生徒の個性や特性や良さを認め、愛情をもって育てることのできる教師  
②生徒の力を引き出し、学習・言語環境を整え肯定的な評価で伸ばすことのできる教師  
③自ら資質・能力の向上に努める教師  
④保護者、地域と連携・協力する教師  
⑤教育公務員の使命を踏まえ学校組織の一員として貢献する教師

教育活動の目標と方策

<学校独自の取組> **生徒が主体的に学習や諸活動に取り組む態度を育成する**  
①主体的で深い学びを促す授業の工夫の実現に向けた授業改善  
・生徒自身が「見通し」をもち「振り返り」を行うとともに、アクティブラーニングを取り入れ「伝え合い、支え合い、学び合う」能動的、対話的、協働的な学習を重視した授業の推進。  
・課題発見、解決を意識し、生徒が主体的に取り組む学習課題の設定や発問の工夫による深い学びの促進  
・運動会、合唱コンクール、道徳授業地区公開講座などの行事では、生徒が主体的に取り組む姿を保護者・地域に理解していただく機会となるよう工夫するし、自校を誇りに思う気持ちをいっそう高める。  
・自己肯定感・有用感を育てるべく、適切な機会と評価や働きかけを諸行事や教育活動を通して実施する。  
・お互いを尊重して係わり合いを持つことにより、ルールを守り主体的に活動できる環境を大切に思う心を持つ生徒を育成する。  
■それぞれ生徒アンケート、保護者アンケート等により、目標が達成されているかの検証を行う。

<学力向上に関すること>  
①主体的で深い学びを促す授業の工夫  
生徒自身が「見通し」をもち「振り返り」を行うとともに、アクティブラーニングを取り入れ「伝え合い、支え合い、学び合う」能動的、対話的、協働的な学習を重視した授業の推進。課題発見、解決を意識し、生徒が主体的に取り組む学習課題の設定や発問の工夫による深い学びの促進  
②思考力・判断力・表現力等の育成  
根拠に基づき自分の考えをもち表現し合う  
③主体的に学習に取り組む態度の育成  
「家庭学習ノート」と「チャレンジ教室」「スタディルーム」と連携した補習学習の実施  
■「学び合い」に関する生徒アンケートの実施により変容を明らかにする。

<特別支援教育の充実に関すること>  
◇生徒に関する情報の共有化  
学期のはじめに、各学年の健康面、生活面での配慮を要する生徒に関する情報共有の場を設け、共通理解を図り、組織的な指導体制を構築する。  
◇校内委員会の充実  
週1回開催する「校内委員会」により、要配慮生徒の指導や状況を把握・共有し、さらにスクールカウンセラー、学校支援員、家庭と子供の支援員、SSW等との連携し、よりよい支援を行う。  
■不登校生徒の経過を共有しスプリングスペースの活用により改善を目指す。  
■配慮を要する生徒全員の支援体制を構築し、生徒の成長につなげる。

<体力向上に関すること>  
「立川市教育力向上推進モデル校」としての研究を踏まえた「体力向上につながる教育活動の工夫」の研究発表  
◇運動会・体力テストに向けた取組  
運動会の各種目に全員が取り組み総合判定C以上を目指し、記録の向上に努める ・2、3年生は、昨年度の記録より向上させることを目標に取り組みさせる。  
◇保健体育の授業における取組  
保健体育の授業においても主体的に運動に取り組むことができるよう、「見通し」と「振り返り」を特に重視し、生徒が主体的に授業に臨み、どうすれば体力向上につながれるかを意識した授業を推進する。  
◇生涯にわたって運動・スポーツに親しむ生徒の育成と体力向上に向けた取組の実践・研究、  
■「学び合い」に関する生徒アンケートの実施により変容を明らかにする。

<健全育成に関すること>  
①人権尊重理念の指導、いじめ体罰の防止、SNS ルールの徹底。  
②道徳授業地区公開講座を軸とした道徳授業の実践。思いやり、自己肯定感の育成、  
③コミュニティスクールとしての役割の充実

<小中連携に関すること>  
①学習習慣と授業規律の定着。  
②コミュニティスクールとして近隣校との連携、地域人材の参加  
③安全教育・市民科教育の相互連携、地域行事等への参加